

## “高齢者にはあいさつの一声を”

全国農協婦人組織協議会

会長 竹部 喜代子

### 1. 在宅ケアを願うお年寄り

世界に類例のない速度で進行する日本の高齢化社会にあって、農家世帯における高齢化進行は全国世帯よりも20年も進行しています。全国にある2,300余の老人施設には16万人が収容されており、地域社会には寝たきり老人、独り暮らし老人、痴呆老人が援助を求めています。

一方健康で余生を楽しむ老人も多く、活発なクラブ活動を展開しています。家庭に、社会に役割をもち、働くことに生きがいを感じるなど心楽しく規律ある日々を過ごされています。しかし一見楽しげに生きるこの人々の心の中には、常に加齢と共に体力のおとろえを感じて毎日の暮しを感謝しつつも、明日への健康に対する不安はぬぐうべくもなく、「いざというとき住み馴れた家を離れて施設にゆきたくない」という心情を県農村医学研究会員調査で報じています。

### 2. 様々な活動に取り組む農協婦人部

さて、高齢化時代に突入している中で農協婦人部はどう対応してきたかをかえりみると、生命の火の消えるまで健康に過すための諸活動のとりくみ、青少年非行防止はもとより長寿時代に応える住みよい明るい家庭づくり活動や老後の生活設計などと全国3,600余の婦人部が挙げてとりくんで来たといっても過言ではないと考えます。家庭看護法を習得する婦人部、地域のボランティア活動に参加して

独り暮らし老人に食事を届ける部員、施設奉仕をする婦人部、恒例の高齢者招待会を収穫感謝と併せて、手づくり開催をする集落婦人部など多彩な活動が実施されてきました。

### 3. 望まれる介護技術習得の場

第17回全国農協大会において決議された、全農協が3年間に取り組む重点活動のひとつに、「組合員および家庭を対象に、高齢者介護の技術を習得するための実施方法」が打ち出されました。戦後、急速な高度経済成長を遂げるなかで、核家族化、家族ぐるみの職場進出による家庭機能の変化、地域社会連帯の希薄化がすすみ、伝承されてきた手づくりの温い家庭介護のある生活から病院や施設委託志向が強まったため、今では家庭内介護方法がわからず、高齢者特有の罹病や老衰をめくり様々な問題をまきおこしております。

かかるとき、高齢者介護の技術の習得の場づくりは、時宜に得たものと考えられるもので、婦人部では身近な所で繰り返し技術習得学習が開設されることを望み、多くの部員が技術資格を身につけることにより在宅ケアこそ当然という意識が地域に波及することと疑いません。ぜひ全農協が高齢者対策活動の一環としてとりまかれるよう期待するものです。

おわりに、地域住民運動として高齢者の心に社会的存在価値感を高揚する“高齢者にはあいさつの一声をかけよう”の励行を提唱するもので、老人の住みよい社会づくりにみんなで心掛けましょう。